

第六章 事務機械・教材・文具・洋品の商況

一 事務機械

昭和四十年代に入ると、商品の流通機構の変化に伴い、事務機械も製品はメーカーから利用者へ直接販売される傾向になり、小売店の活動範囲は次第に狭められ、嘗てメーカーとの契約により力強い販売権を有した代理店制度が徐々に失われつつあった。当社に於ても戦前からの日本総代理店であったモンロー社とは昭和四十四年七月三十一日に、同じくローヤル社とは翌四十五年十一月三十日に、日本総代理店契約を解消した。

一方において、安価で優秀な国産事務機械の出現によって、輸入事務機械販売の当社は手痛い打撃を受けた。その一例としては、卓上電子計算機（電卓）の出現によって、モンロー電動計算機の売上げが激減した。

このような内外の変化に対応するために、当社でも販売主力商品として電子計算機を積極的に取扱うことを決め、MGP-21 電子計算機その他富士通の Facom-10 の販売を開始した。そのためには、販売担当社員の講習会受講、再トレーニング等人事管理面に於ても種々の工夫を必要とした。

この時期、このほかに当社が取扱った事務機械は、ロイマック 201、モンロー計算機・会計機、ローヤルタイプライター、ゲステットナー輪転謄写機、タイムレコーダーなどであった。

これらの中、電子計算機、ロイマックの売上げが伸びた一方、会計機、計算機、タイプライターの売り上げは減少した。そこで自社製品のタイムレコーダーの販売に力を入れ、本支店合せて五、〇〇〇と六、〇〇〇台を販売、一方輸出も伸びて昭和四十四年には、国内外合せて八、〇〇〇台余を販売した。しかし、タイムレコーダーも、その後国内の需要は減少する傾向で、また安価な他社製品も豊富に出廻って来たため、デパート、小売店への卸売販売に切替えた。

右のように、事務機械業界の前途のけわしさの中で、創業百年を記念して次のようなセールを行った。

創業一〇〇年記念事務機械セール

(昭和四十三年十二月二十日まで)

モンロープリンティング計算機、ロイヤル電動タイプライター六六〇型(抽籤賞品 豪華応接三点セット)

ロイヤルタイプライター四四〇型、タイムレコーダーC型、タイムレコーダーS三〇〇型(抽籤賞品 ゴルフクラブセット)

タイムレコーダー一〇〇型、コストレコーダー(抽籤賞品 豪州製羊皮敷皮) 以上お買上げ一台ごとに壁掛け

温度計を進呈

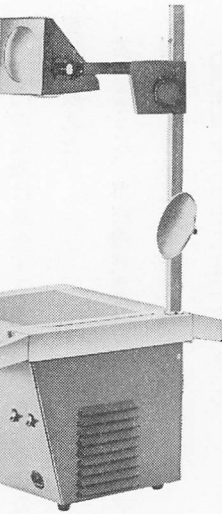
(昭和四十四年一月十四日まで)

ロイヤルタイプライター二〇〇型、ロイヤルサファリー(抽籤商品 JTB旅行券) 以上お買上げ一台毎にシヤープペンシルを進呈

二 文具・事務用品・教材

事務用品では、インキ、サインペン（日暮里工場製造）、ステープラー、テープカッター、番号器（丸善精機工業製造）、スチール製書架、書棚、机、椅子、カード箱（佐藤金庫鋼鉄工業所・第一鋼鉄工業所製造）といった自社製事務用品はそれぞれ着実に売上げを伸ばしている。筆記用具としての万年筆は、高級品化する傾向をみせ、当社においても舶来万年筆の売行きは好調で、一万円前後のものがよく売れているが、漸次装飾的趣好を強くしたものの製造されるようになり、中には四十万円を超すものも出てきた。またボールペン、シャープペンシルも高級化する傾向にあり、これらのセットが入学祝等の贈答品として好評であった。こうしたなかで日暮里工場ではアテナ

万年筆の製造を中止した。



OHP-101

この他、既述した学校用教材の開発では、オーバーヘッドプロジェクター「マルゼン OHP-101」と顕微鏡投影装置「マルゼン MSP-201」は順調な売行を示した。語学用カセットの売行も好調で、英・米・独・仏・露語のものを始め九十余カ国に及ぶカセットが店頭に並んでいる。

昭和四十四年秋、当社は「マルゼン立休月球儀ジュニア」を売り出した。これは、この年七月二十一日、アメリカのア

ポロ十一号による人類初の月面着陸によってもたらされた資料や NASA の資料に基づき、京都大学花山天文台長宮本正太郎博士の監修により新しく製作したもので、月の約千七百万分の一の縮尺、直径二十センチメートルの成型模型に可能な限りの山・山脈・海・入江・岬・湖・大洋など月の表・裏全面の地形が立体的に、地名入りで示され、その中にはアポロ十一号が降りた「静かな海」や、十二号の降りた「あらしの大洋」の名が入ったものであった。学校教材としても、学習をかねた家庭の飾り物としても好適なものであった。当社は、すでに、昭和四十一年月の半面が判った頃、半面無地の月球儀を売り出しており、その後、順次改良を加えつつこのときに至ったのであるが、その後も更に小型でより精密な月球儀を売り出した。昭和四十四年以後一年半の間に、爆発的な売行きを示した。

洋書仕入部で輸入を担当している分子構造模型も、中学・高等学校の理科教育の教材として不可欠のもので、従来から輸入・販売していたアメリカのブレンティス・ホール社の FMM 分子構造のほか、日の本合成樹脂製作所製 HGS 分子構造模型の販売総代理店の契約を結び、一手に取扱うことになった。

三 洋 品・雑 貨

東京オリンピック、万国博覧会などによる各国人往來の増加は、日本の社会風俗の上に大きな変化をもたらしつつあることは、ここに記するまでもない。それに国内における経済膨張という傘の下で、とにかく国民生活の向上と洋風化は極めて著しかった。そのことは、当社取扱の洋品の上にも及んできた。

例えば、男子用の帽子であるが、ベレー帽の売れ行きが増加する反面、ソフトの需要は年々減少し、わずかの期間（昭和四十四、五年頃）ではあったが、売場から影を消したことがあった。夏帽子ではいわゆるカンカン帽が完全に影を消し、白のバナマ帽子のほか、茶や藍色などのカラーバナマが店頭に並べられた。それと前後してステッキの愛用者も非常に減った。

その他の洋品ではゴルフ用品がゴルフ熱の上昇に伴って、売行き順調で、また婦人用品は依然として質実な落ちついたものを店頭に陳列して好評であった。婦人用品の客足は年々増しつつある。

昭和四十一年―四十五年中元・歳暮贈答品

値段では七〇〇円―三、〇〇〇円程度の品物がよく売れ、昭和四十五年頃になると一、〇〇〇円―五、〇〇〇円程度になった。一般に好況の一つの表徴であろう。品物としては、毛布、靴下、肌着は相変わらず根強い売行きであった。その他に、洋酒、洋服生地といった高級品が増えてきたのもこの頃である。目立ったものとしては、無地のウールマフラーが進物品としてよく売れた。

四 万国博覧会

昭和四十五年には、大阪市郊外千里丘陵で日本万国博覧会が催された。万国博は各国の産業技術の粋を展示する催しである。「丸善社史」の編者徳川武定の父昭武が、パリで開催された第五回万国博覧会に派遣されたのは、慶



万国博覧会売店

応三年一月であった。昭和四十五年から丁度百三年前である。その一行には、日本資本主義育ての親渋沢栄一や、印刷機の輸入者清水卯三郎などが随行していた。そして日本に博覧会という催しを輸入し、その時の見聞などから、明治初年には京都や伊勢山田で博覧会と名付けた小さな催しが行われた。そして明治十年には、東京上野不忍池畔で、第一回内国勸業博覧会が催された。明治前期における共進会や博覧会の日本経済に及ぼした影響の大なことを更めて指摘したのは、土屋喬雄博士である。

当社では、万国博覧会の意義について、昭和四十五年一月号の「学鑑」に春山行夫の「万国博の歴史」を掲載した。また本店の洋書売場・和書売場では関係書を陳列した。

当社は、大阪の万国博覧会会場では、英国館 (British Pavilion) に売店を、金曜広場に British Book Shop を開設し、その経営に当ることを委嘱されたので、この二つの売場の設置・運営を大阪支店に委ねた。大阪支店では、右の英国館売店を英国館の参観者出入口と向いあった所に設置、英国特産のキャンデー、ウイスキー、チョコレート、洋品雑貨類を陳列販売した。この売店は連日非常に賑わったが、わけても開会当日はむしろ凄まじかったという。ウイス

キーなどは予定した量が開店と同時に売れ切れて了った（三月十五日大阪版「読売新聞」）。大阪支店店頭の平常一カ月分の売上がこの売店の一日分とほぼ同じだったという。

金曜広場には、各国の売店が設けられ特産品を販売したが、英国売店では特産品として British Book Shop を開いた。取扱った洋書は、大衆的な一般雑誌（服飾・娯楽・スポーツ）、双書（Penguin, Corgi, Fontana）、絵本、地図帳（Philips' Pocket Atlas）、辞書（P. O. D., C. O. D.）、豆本（Shakespeare作品集）などである。

なお French Pavilion に展示されていたフランスの書籍のうち、新刊書の注文は当社に一括して移管されたため、出版社からの取寄せ、納入の仕事も担当した。

前述したように、これら一切の業務は、大阪支店長以下全支店員の昼夜を分たぬ奮闘によって遂行されたものであったことを特記しておきたい。